

Rising Moon



令和6年(2024年) 11月12日

秋惜しむ
コンビニスイーツ
まとめ買い
作 ある中学生



暦の上では早くも立冬を過ぎましたが、まだ秋の名残を感じる日々が続いています。保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。短い秋となりそうですが満喫しましょう。

さて、11月に入り、生徒たちは学習を中心とした生活を送っています。来週から始まる期末テストに向け、秋の夜長は家庭学習に没頭してほしいと願っています。保護者の皆様も叱咤激励のほどよろしくお願いいたします。

令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要 (文部科学省)

先日、文部科学省から標記調査の結果が公表されました。令和5年度の結果です。近年、これらは全国的に大きな課題となっており、各校においても最重要課題の一つとして取り組んでいます。以下に衝撃的な数値を紹介します。



1 いじめ

小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は **732,568 件** (前年度 681,948 件) であり、前年度から 50,620件 (7.4%) 増加。児童生徒 1,000 人当たりの認知件数は **57.9 件** (前年度 53.3 件)。認知件数は新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度に一旦減少したが、その後3年連続増加し、過去最多となった。

2 暴力行為

小・中・高等学校における暴力行為の発生件数は **108,987 件** (前年度 95,426 件) であり、前年度から 13,561 件 (14.2%) 増加。児童生徒 1,000 人当たりの発生件数は **8.7 件** (前年度 7.5 件)。発生件数は新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度に一旦減少したが、その後3年連続増加し、過去最多となった。増加の背景として、いじめの認知に伴うものや児童生徒に対する見取りの精緻化によって把握が増えたことなどが考えられる。

3 長期欠席(年間30日以上欠席)、並びに、不登校

小・中学校における長期欠席者数は **493,440 人** (前年度 460,648 人)、高等学校における長期欠席者数は **104,814 人** (前年度 122,771 人) となった。

「病気」により30日以上登校しなかった児童生徒数は、小学校 57,905 人 (前年度 31,955 人)、中学校 47,933 人 (前年度 43,642 人) と、特に小学校で大きく増加する一方、高等学校は 26,268 人 (前年度 30,976 人) と、減少した。

(長期欠席のうち小・中学校における不登校)

小・中学校における不登校児童生徒数は **346,482 人** (前年度 299,048 人) であり、前年から 47,434 人 (15.9%) 増加した。内訳は、小学校 130,370 人 (1,000 人当たり 21.4 人)、中学校 **216,112 人** (1,000 人当たりの出現率は **67.1 人**)。特に小学校の不登校児童数が増加しており、10年前の約5倍になっている。11年連続増加し、過去最多となったものの、増加率は前年度と比較して若干低くなった (R4 22.1% → R5 15.9%)。在籍児童生徒に占める不登校児童生徒の割合は 3.7% (前年度 3.2%)。なお、出席日数が0日の者は 3.1% (前年度 3.2%)、出席日数が1~10日の者は 7.4% (前年度 7.5%) だった。また、欠席日数が 30~49 日の者は 22.3%、欠席日数 50~89 日の者は 22.7%、90 日以上欠席している者は 55.0% (前年度 55.4%) だった。

なお、高等学校における不登校生徒数は **68,770 人** (前年度 60,575 人)。

4 中途退学

高等学校における中途退学者数は **46,238 人** (前年度 43,401 人) であり、平成 25 年度以降減少傾向にあったが、令和2年度を境に増加している。中途退学率は **1.5%** (前年度 1.4%)。中途退学の主な理由として、「進路変更」によるものが最も多く、19,087 人 (前年度 19,055 人) となっており、割合は 41.3% (前年度 43.9%) となっている。



言葉の持つ力



保護者の皆様、言葉がどのくらい影響力を持つか知っていますか。
ハーバード大学での研究では、言葉の暴力は体の暴力の約6倍ものダメージを脳に与えることが発表されています。継続的に言葉の暴力を受けることで大脳皮質の側頭葉・視覚野が委縮し、言葉の理解や会話・コミュニケーションに影響を与えるそうです。

「〇〇(兄弟や友達)と比べて駄目(だめ)なんだから」「片付けもできないなんてだらしない」「もう知らない」など、つい口にしてしまう、子どもの人格を否定するような言葉がけや否定的に叱り続けることが、脳にダメージを与えているかもしれません。

言葉の暴力はどこからが OK でどこからが NG か分かりにくく、そのため、積み重ねて繰り返して行われてしまう可能性が高くなると言われています。そんな時は、発した言葉が、子どもから発せられた言葉だと想像してください。きっと OK な言葉がけか、NG な言葉がけか判断できると思います。

発した言葉を振り返る時間を持ちながら、子どもと接することができると思います。駄目(だめ)だと思っても「つい頭にきて…」ということが続く時は、時間の余裕がなく疲れている時かもしれません。今していることを少し手放して、ほっとする時間をぜひ持ってみてください。

飯能市教育センター 教育相談日より

【追記 生徒の皆さんへ】 ～ ポジティブ・前向きな言葉は、「朝の挨拶」から ～

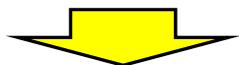
他者に対しては、毎日の挨拶やちょっとしたお礼、いいところは素直に褒めるといったことがとても大切です。毎日の挨拶だけで相手との関係がよくなることもあります。言葉をかけるときはその言葉が相手に届くように相手の顔、目をきちんと見ることも忘れないようにしてください。

特に挨拶は、1日のうち最初に発する言葉で、相手に喜びを与えることができる魔法の言葉です。相手は、家族、地域の方々、そして、先生方や友だちです。そこで出逢った人に気持ちの良い挨拶ができれば、挨拶をされた人はきっと気持ちのよい一日を過ごすことができるでしょう。

東中学校では、毎日、正門や昇降口で、先生方や生活安全委員が登校してくる皆さんに「おはようございます」・「おはよう」と挨拶をします。それに対して皆さんが爽やかに挨拶を返してあげると、相手は喜びを受け取ります。しかし、挨拶を返さなかったら、しかも、無視するかのように前を通り過ぎたら、相手は喜びではなく、逆に苦痛を受け取ります。ぜひ、明日から、挨拶を返してあげてください。もちろん、挨拶は先手がよいです。

一方、相手をおとしめる言葉・苦痛を与える言葉・嫌な思いをさせる言葉・人権を無視した言葉などは厳禁です。「死ね」・「消えろ」・「うざい」・「バカ」・「きもい」・「デブ」・「ブス」など、これらの言葉はすべて「侮辱罪」や「名誉毀損罪」にあたります。人の命さえ奪う可能性があるこれらの言葉は、SNS上を含めて、絶対に使ってはいけません。

最初の記事で紹介した国の調査には、子どもの自殺者数が出ています。R5年度の中学生の自殺者は全国で126人、うち、いじめの問題で自殺した生徒は5人でした。



カン マリ コヤ オマン マリ コフタ

これは韓国の諺(ことわざ)で、「行く言葉が美しいれば、来る言葉も美しい」という意味です。

あなたが美しい言葉・優しい言葉を口にすれば、相手からあなたに返ってくる言葉も、美しく優しいものになるということです。優しい言葉は、易しい言葉ではありません。でも易しくないから、易しい言葉は優しい心を育みます。「そよ風のよう」優しさをみんなに持ち続けてください。

定期教育相談が始まっています

今週はⅡ学期の定期教育相談週間です。担任の先生と1対1で、心配なこと・悩んでいることなどを話します。話の内容によっては、他の先生方やスクールカウンセラーに繋がります。一人ひとりが安心して生活できるよう、問題が大きくなる前、早期発見・早期対応・早期解決に努めています。保護者の皆様も、お子様のことで何かご心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

【11～12月のスクールカウンセラー来校日】

- 11月25日(月) 13:00～16:30
- 12月9日(月) 13:00～16:30
- 12月23日(月) 9:00～12:00

* 午前中は東小ですので、午前中の相談も可能です。
* 申し込みは、担任の先生、または、教育相談担当:村井 まで
TEL 東中学校 22-0108

